



冷静さを心掛けながら、ペットボトルなどを使って体を浮かせる参加者

高崎

本格的な水のレジャーシーズンを前に水難事故に備えようと、高崎市PTA連合会は7日、同市下和田町の城南プールで着衣泳講習会を開いた。各中学校の保護者ら約70人が、服を着たまま水に浮くコツや救助方法を学んだ。

高崎市等広域消防局の隊員6人が講師を務め、「慌てないで、静かに浮いて待つことで生存の可能性が高まる。子

水難事故に備え 着衣泳講習会

市PTA連合会

どもが溺れたら浮具を投げ入れてほしい」と呼び掛けた。

参加者はプールの中で3分間浮いたままでの練習をしたり、ペットボトルなどを投げ入れ、溺れた人を救助する訓練をした。

同連合会の清水久美会長(50)は「ペットボトルを持つと浮力が増した。いざという時には焦らず、冷静な対応を心掛けたい」と話していた。